

用途・応用分野

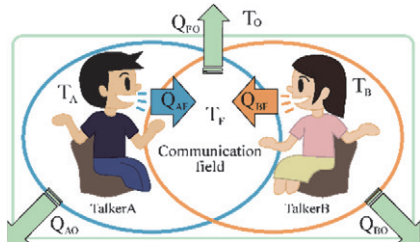
- ・アミューズメント機器、玩具
- ・グルーディスカッション支援、アプリ開発
- ・遠隔対話支援

本技術の特徴・従来技術との比較

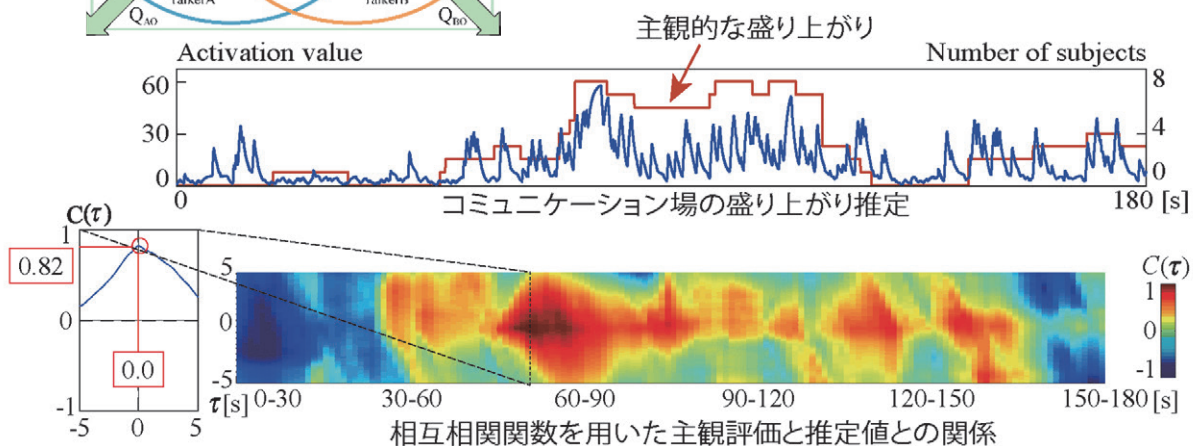
- ・本技術は、発話から遠隔対話の雰囲気や盛り上がり度合いを推定することができる
- ・従来は、キャリブレーションによって個人特性を推定していたが、本技術ではキャリブレーションフリーで推定できるため、ロバスト性が高くかつ幅広く応用可能である

技術の概要

- ・遠隔コミュニケーションを仮想的な温度空間として捉え、対流に基づく場の温度から盛り上がりなどの雰囲気を推定
- ・主観的な場の雰囲気と推定値との一致度は高く、かつリアルタイムに評価できる



- 【温度】話者、コミュニケーション場(温度空間)、外部環境
- 【熱量】コミュニケーション場における熱移動量
- 【熱容量】話者およびコミュニケーション場



特許・論文

<論文>

Y. Sejima, et al, Estimation Model of Interaction-activated Communication based on the Heat Conduction Equation, Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing, Vol.10, No.9, 2016. [DOI: 10.1299/jamdsm.2016jamdsm0103]

研究者

瀬島 吉裕

総合情報学部 総合情報学科

瀬島研究室

HP: <http://www2.kansai-u.ac.jp/hri/>

<外部資金>

JST A-STEPトライアウト: with/postコロナにおける社会変革への寄与が期待される研究開発課題



お問い合わせ先

関西大学 社会連携部 産学官連携センター

TEL: 06-6368-1245

MAIL: sangakukan-mm@ml.kandai.jp